

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

第8回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（以下、「ボラサポ」と略）の第8次の助成先を決める配分委員会（第9回）を開催しました。今回は今後の助成方針について協議するため、第6回運営委員会との合同委員会としました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「（第1回から第7回までの）助成決定に当たって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

1. 第8次の応募状況等と助成決定状況

（1）応募状況

6月1日から6月29日を受付期間とした第8次募集では、1か月未満の「短期活動」は、183件・5,924万円、1か月以上の「中長期活動」は、246件・6億1,006万円の応募がありました。さらに、前回から設けた1000万円を上限とした、もう一つの「中長期活動」には、10件・9,845万円の応募がありました（合計：439件・7億6,775万円）。

応募件数、応募金額いずれも過去最高となり、震災から1年を過ぎてもなおこうした活動が必要とされている状況や、他の助成金が徐々に少なくなる中で年間に複数回の応募機会があるボラサポに対して期待が寄せられていることが感じられました。

（2）全般的な傾向

第8次応募の活動では、次のような傾向が見られました。

- ① 応募状況でも述べたとおり、第1次から通じて過去最高となる応募が寄せられました。
- ② 前回からの傾向ですが、応募書を変更してより詳細な記載を求めたこともあって、応募してきた活動内容の具体性に欠ける案件がありました。継続して助成している活動では、以前助成した活動からどのような変化があったのか読み取れず、助成に至らなかった活動もあります。今後、こうしたことを記載しやすいような応募書にすることについても、検討を行うこととしました。
- ③ 広域に避難している人たちを全国で支える活動についての応募も引き続き多く見られます。一時的なサポートではなく、避難した先で同じ住民として関わり、就労につながるような支援をしている団体の活動も見受けられました。
- ④ 中長期活動については、前回から宮城に次いで福島で活動する団体の応募が多くなっています。これまでは宮城、岩手、福島の順でしたが、福島での活動が多くなった要因として次のことが考えられます。原子力災害の影響を受け立ち入ることのできない地域が多かった発災当時から状況が少し変化したこと、警戒区域等の解除にともないこれから泥かきやがれき撤去の活動が始まる地域が出てきたこと、地元の人たちが始める活動の応募が増えていることなどです。
- ⑤ 経費面では、人件費や拠点の家賃など団体の運営経費にかかる応募が多く見られました。長期的な活動を継続するうえで欠かせない経費ですが、なかなか資金調達が難しい経費でもあるため、そうした応募を認めているボラサポに多く申請が寄せられたものと考えています。ただし、そうした経

費を活用してどのような活動を行うのかが十分応募書から読み取れない団体も多く、残念ながら助成に至らなかったり大きく減額となった応募がありました。

- ⑥1000万円を上限とする活動について前回よりも多くの応募がありましたが、必要条件を満たさずに要件不備として不採用となる活動が多くありました。応募の際には応募要項等をよく確認いただくことを改めてお願いします。

応募された活動の中には、ボラサポの助成を受けている団体同士で連携し、より効果を上げていると考えられるものもありました。今後もこうした工夫などで被災した方々にとってよりよい活動が行われるよう期待します。

(3)今回、検討を行った助成の考え方について

[第8次の審査から変更する点]

①優先順位を意識した審査について

これまでボラサポでは応募要件を満たしており、応募書から必要性が読み取れる活動と経費については基本的に助成する方針で進めてきました。その結果、第7次までに21億円を超える助成を行うこととなりました。必要とされる多くの活動について今後もこうした方針で助成を続けていきたいところですが、助成額の全額が寄付によって成り立っている性質上、寄付額に応じた助成をしていかなければなりません。助成財源の減少と、応募件数の増加という状況を鑑み、今回から優先順位を意識して審査を行なっていくものとします。特に今後は被災した人たちが自身が行う活動について応援をしていきます。

②継続的に助成している案件について

ボラサポではいくつかの条件を満たした場合に限り、1団体の上限300万円を超えて助成することができるとしています。これまでもいくつかの活動についてはその都度必要性を見極め、継続的に助成を行ってきました。しかし震災から1年半が経過するという時期や、上記で述べた助成財源の状況を鑑み、今後は必要性があったとしても地元の団体に引き継ぐような取り組みが見られない場合には助成を見送ることにしました。その具体的な内容として、

- a. 被災した人々の参画が見られるかどうか、
- b. 地元の人が主体的に活動に取り組めるような工夫を行なっているかどうか、
- c. いつ頃までに活動を引き継ぐかという見通しを持っているかどうか、

などの点について応募書から読み取れるかどうかを基準とします。また、第10次以降についてはこうしたことを記載しやすいような応募書の形式を検討します。

③複数助成している案件について

ボラサポではいくつかの条件を満たした場合に限り、同時に複数の活動の応募をすることも可能としてきました。これについても上記の状況を踏まえ、以下のように変更します。

- a. 1団体が期間を区切ってボラサポを活用できるのは最大2件とします。
- b. 同一の活動については、以前の活動の精算が終了していない段階で応募することはできません。
- c. 別活動であっても、すでに1件の助成が決定しており精算が済んでいない活動がある場合には、その時点から1件しか応募できないこととします。
- d. 過去に助成が決定した活動についてすべての精算が済んでいるか、過去に助成が決定した活動がない場合には、1回の応募期間で最大2件までの応募を可能とします。

[第9次の審査から変更する点]

④過去にさかのぼって応募できる期間について

震災から1年が経過した第8次の応募期間についても、2011年3月までさかのぼっての応募が複数見られました。限られた助成財源の中でできるだけ今後行われる活動を応援したいという思いから、第9次は2012年3月1日以降の活動について応募を可能とし、それ以前の活動は助成対象外とします。また、第10次以降についてはこの期間をさらに短くすることを検討します。

⑤コーディネーターに対する人件費の助成について

継続して活動を実施する場合に特にコーディネーターが必要であると考え、コーディネーターに対する人件費については中長期活動の場合のみ応募を可能とします。短期活動については専門職に対する日当・謝金のみのお金を応募を可能とします。

⑥1000万円を上限とする活動日数の定義について

継続的に行う活動を支援するという趣旨から、これまでの「1年以上3年未満」という条件に加え「300日以上」という条件を加えることとします。したがって、1000万円を上限とする活動の場合は最低1年間の期間中300日以上の活動があることを条件とします。

(4)終わりに

助成財源の減少にともない、助成方針も大きく変更せざるを得ない状況が明らかになってきました。第10次からの応募に向け、今後の助成方針についてよく協議を行い、ホームページ等を通じてみなさんにご報告することとします。また、これに伴って応募書についてもより必要事項が記載しやすいよう変更を行うこととします。

少しでも長く、少しでも多くの団体に助成を行うことができるよう、事務局とともにより一層ボラサポに対しての寄付のお願いを行なっていくこととします。活動するみなさんもこうした呼びかけを行なっていただけるようご理解いただきたく、どうぞよろしくお願ひします。

以 上

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」

配分委員会 委員長 山崎美貴子